

アメリカンフットボールの文化論
—選手たちに共有される「秘密」をめぐって—
早稲田大学大学院人間科学研究科 石井 佑樹

アメリカンフットボール（以下、アメフトとする）は、古代ギリシア・ローマの重装歩兵を彷彿とさせる防具を装着した選手同士の激しいコンタクトに加えて、緻密に計算された作戦の数々がその基盤をなしている。アメフトは、言うなれば「陣取り合戦」であり、自チームの陣地を相手陣のエンドゾーンと呼ばれる地点まで進めていくことにより得点し、その合計点を競うスポーツである。ゲームを進めていくうえで、フィジカルの面で上回っているチームが優位に立てることは言うまでもない。しかし、同時にうまく作戦を織り交ぜて使用しないと、効果的に陣地を獲得することはできないである。くわえて、思いもよらない奇策（トリックプレー・スペシャルプレー）を駆使することにより、相手とのフィジカル差をうまく解消してゲイン（陣地を獲得する）することも可能である。アメフトという競技においては勝利を得るための要素として、戦術の占める割合が他のスポーツと比較して大きいとさえいいうことができる。

この作戦が記された媒体を一般的にアサイメントと呼び、それには陣地を獲得・守備する方法が詳細に記載されている。各チームは、1試合に平均100–150前後のアサイメントを用意し、その状況に応じて最もマッチしていると思われるものを選択する。各チームにとってアサイメントは門外不出であり、一般的に不特定多数の人が存在する場での閲覧は禁じられている。アサイメントは、言い換えると各チームにおける「秘密」なのである。このような観点にたってアメフトチームを考えてみると、ある種の「秘密結社」として考えることができるだろう。

紙面上では巧みに陣地を獲得または守備できるように記載されていても、実際の試合においてその通りに実行することは非常に難しい。なぜならば、相手も同じように緻密に計算された作戦を使用するからである。紙面上の作戦を試合において使用するまでには、紙面上の動きと選手の動きとのギャップを埋める作業や、コンビネーションの確認、はてない反復練習などのさまざまな試行錯誤がなされている。

日本においてアメフトは、これまでスポーツ医学を中心に研究がなされてきた。その他、歴史【熊澤：2013】、コーチング【池上ら：2006】などの先行研究が存在している。また、戦術に着目した書籍・論文は存在するものの蓄積は非常に少ないので現状である。本発表では、アメフトの「秘密」に着目し、それがいかにして身につけられているのかに加えて、スポーツコミュニティにおける「秘密」のもつ社会的特性に関して考察していきたい。